

動物故事物語

實吉達郎



動物故事物語

實吉達郎

普及版

動物故事物語

昭和五五年九月二〇日 初版印刷
昭和五五年九月二五日 初版発行

著 者 實 吉 達 郎

発行者 清 水 勝

印刷者 草 刈 龍 平

発行所 株式会社 河出書房新社

東京都渋谷区千駄ヶ谷二一三二二
振替 東京〇一〇八〇二
営業〇三(四〇四)一一〇一
電話 編集〇三(四〇四)八六一一

©1980

印刷・中央精版 製本・中央精版

定価は帯を御覧下さい

目

次

猫	牛馬	牛	馬	猿	虎	兎	犬	魚	虫	竜	蛇
143	139	129	118	100	85	70	56	41	22	16	3

小鳥	鷹	鶏	鹿	羊	鵪 もず	鵪・目 いすか ・白 めじろ ・鴉 に	鴛鴦 おしどり	鳥 からす	鳥	狼	獅子 しし
210	206	202	196	191	190	187	185	179	173	164	151

麒麟 きりん	象	鼠	猪	豚	鼯 いんち	狐・狸・龟	蛙	蜂	雀	雉・雁 きじ	梟・時鳥・鷓 ふくろう はとときす しぎ
262	258	255	252	248	246	241	235	228	224	220	216

新作諺	豹・その他 ひょう	獭 ば
271	267	264

動物故事物語内容項目

【あ】

赤犬はうまい……………193
 秋の扇とすてられる……………76
 悪事千里を走る……………206
 悪魔波旬と荒れ狂う……………158
 悪竜も土地の蛇にかなわぬ……………13
 明け方の虎の如し……………96
 朝寝坊の狼は鳥がとれない……………165
 朝のクモは縁起がよく、夜のクモは縁起が悪い……………40
 海驢の番……………264
 朝に生まれて夕べに死す……………40
 足もとから鳥が飛び立つ……………172
 阿修羅王の荒れたる如く……………158
 頭デッカチ尻つぼみ……………6
 暑さ忘れて蔭忘る……………73
 後の雁が先になる……………223
 穴持たず……………172

【い】

兄貴はおれより年が上……………207
 あの声で蜥蜴食うかや時鳥……………218
 虻蜂とらず……………27
 甘いものに蟻がつく……………25
 蛙鳴蟬噪……………238
 雨の降る日は天気が悪い……………207
 雨降って地かたまる……………67
 危きこと果卵のごとし……………205
 蟻の這い出る隙もない……………24
 烏賊の甲より年の劫……………243
 生き馬の目を抜く……………123
 石亀の地団駄……………223
 石地藏に蜂……………135
 医者と坊主は老人がよし……………243
 医者魔羅八寸、坊主魔羅九寸……………132
 イスカの嘴の食いちがい(イスカの嘴)……………187
 磯の鮑の片思い(あわび)……………51
 イタチごっこ……………248
 イタチ無き間の貂誇り……………246
 イタチ無き間の鼠……………246
 イタチの最後っぺ……………247
 イタチの目蔭……………247
 イタチの道……………222
 イタチの道切り……………222

痛む上に塩を塗る……………27
 一山に二羽のキジなし……………172
 一難去ってまた一難……………221
 市に虎あり……………88
 一富士・二鷹・三茄子……………95
 一網打尽……………266
 一竜一猪……………51
 一挙兩得……………21
 一大虚を吠えて万(十)犬実を伝う……………210
 一殺多生……………21
 一寸の虫にも五分の魂……………61
 一石二鳥……………31
 一銭を笑うものは一銭に泣く……………30
 一斑をうかがう……………210
 一斑をみて全豹をトす……………269
 一斑をみて全豹をトす……………10
 一匹狂えば千匹の馬も狂う……………269
 鶉蚌の争いは漁夫の利となる……………126
 犬が西向きや尾は東……………219
 狗猛くして酒酸し……………207
 犬とサルのように仲がわるい(犬猿の仲)……………61
 犬に肴の番……………67
 犬になるなら大家の犬になれ……………63
 犬に論語……………63
 犬の口に象牙が生えてたまるものか……………72
 犬の遠吠え……………145
 犬の肉には狼のソース……………59
 犬の肉には狼のソース……………165

犬は三日飼えば三年恩を忘れず	61	魚が水を得たよう	176
犬骨折つて鷹の餌食	64	魚心あれば水心	42
犬も歩けば棒にあたる	56	魚のかかるは甘餌に由る	51
犬も食わぬ	63	魚の木に登るが如し	49
犬も朋輩、鷹も朋輩	64	魚の釜中に遊ぶが如し(釜中の魚)	50
豕を抱きて臭きを忘るる	251	魚の水を離れたよう	49
イノシン武者	252	魚は江湖に相忘る	51
命あつての物種	175	上見ぬ鷺	210
井の中の蛙大海を知らず	235	上見ぬ鷺の振舞い	210
意馬心猿	119	鶯鳴かせたこともある	213
いやいや三杯、逃げ逃げ五杯	145	鶯の卵の中のほととぎす	212
いやじやいやじやは女の癖	145	烏合の衆	181
いやと頭をたてにふる	145	兎を得て畏を忘る	73
色気より食気	218	兎をみて犬を放つ	72
色の白いは七難かくす	122	兎を見て狗を呼ぶ。未だ晩しとせず	72
鰯網で鯨捕る	73	兎を見て鷹を放つ	72
鰯の頭も信心から	43	兎死して狐悲しむ	78
言わぬが言うにいやまさる	22	兎に祭文	72
いわれなく打たれたれば犬でも怒る	62	兎の登り坂	72
隠忍自重	35	兎の糞	72
		兎の畏に狐がかかる	73
		兎兵法	198
		兎も三日なぶれば嚙みつく	72
		兎の毛	74
		兎の毛でついた隙もない	72
		牛売つて牛にならず	130
		牛売つて馬買う	140
		牛を馬にのりかえる	139
		牛が夜中にさかんに鳴くと火事の前兆だ	183
		牛と呼び馬と呼ぶ	140
		牛啼いて馬応ぜず	140
		牛に説法、馬に錢	72
		牛に対して琴を弾ず	135
		牛に話したことは洩れないが、妻に話	135
		したことは洩れる	135
		牛に曳かれて善光寺詣り	132
		牛の蛇を搏つも蟻蝨を破るべからず	136
		牛の体から毛を一本抜く	129
		牛の如く飲む	131
		牛の角を蜂が蟻す(牛の角に蜂)	135
		牛の角は手をかけた時に抜いてしまえ	135
		牛の一突き	136
		牛の骨	139
		牛は赤いものを見ると怒る	136
		牛は牛づれ、馬は馬づれ	140
		牛は水を飲んで乳とし、蛇は水を飲んで	131
		毒とす	62
		うそから出たまこと	176
		嘘八百	62
		うそはまことの皮	145
		うち蛤のそと観	62
		烏頭白くして馬角を生ず	120

ウナギ変じて山芋となる……………	226	蝦 えび で鯛を釣る……………	42	おケラの水渡り……………	40
鵜 う の真似する鳥……………	181	蝦 えび の鯛まじり……………	46	小田原評定……………	226
鵜 う の目、タカの目……………	209	鴛鴦 うんやう の契り……………	186	おどけがほんになる……………	62
馬を得て鞍を失う……………	121	燕雀 えんせつ いずくんぞ鴻鵠 ほうこく の志を知らんや……………	210	踊る阿呆に踊らぬ阿呆……………	47
馬を華山の陽に帰し、牛を桃林の野に放つ……………	141	燕雀 えんせつ 鳳 ほう を生ぜず狐兔馬 こてうば を乳せず……………	238	同じ穴のムジナ……………	245
馬を相する、之を瘦に失し、士を相する、之を貧に失う……………	122	【お】		同じ畑の茄子……………	246
ウマが合う……………	121	王侯将相なんぞ種あらんや……………	210	鬼が出るか蛇が出るか……………	8
馬疲れて毛長し……………	123	黄口の乳臭児……………	186	鬼が仏に早変わり……………	268
馬に乗るまでは牛に乗れ……………	140	鵲 こひね は能く言えども飛鳥を離れず、猩 しょう ……………	270	鬼に金棒……………	159
馬には乗ってみよ、人には添ってみよ……………	119	猩 しょう 能く考えども禽獸を離れず……………	203	鬼の念仏……………	268
馬に倚りて待つべし……………	120	負うた子に教えられて浅瀬を渡る……………	268	お山の大将おれ一人……………	236
馬の骨……………	139	狼が衣を着たよう……………	172	及ばぬ鯉の滝登り……………	43
馬の耳に念仏……………	145	狼に熊の力があつたり、熊に狼の勇氣があつたりしたら大変だ……………	166	女賢うして牛売り損なう……………	130
馬は仕込んだのをえらべ、人間はこれから仕込まれるのをえらべ……………	121	狼の知能は足と牙に集中している……………	165	女の黒髪は大象をもつなぐ……………	260
鳥有に帰す……………	183	オオカミの毒……………	166	女の情に蛇が住む……………	11
瓜を投じて瓊 たま を得る……………	42	狼のように吠える……………	166	女の裳裾が十二尺に拡がる……………	203
瓜には瓜がなり、豆には豆がなる……………	238	狼は足で暮しをたてる……………	165	【か】	
瓜の蔓に茄子はならぬ……………	208	狼はどんなに可愛がつても林を眺めている……………	166	飼犬に手をかまれる……………	57
売りものには花を飾れ……………	121	狼はローマへ行ってその毛がなくなつた、しかしその性質は全くなくなかった……………	267	会稽 けい の恥を雪ぐ……………	106
烏鳶 うお を闘わす……………	180	狼はローマへ行ってその毛がなくなつた、しかしその性質は全くなくなかった……………	165	偕老同穴の契り……………	240
【え】		尾を振る犬はアテにならぬ……………	273	返し矢おそるべし……………	222
枝を切りて木を枯らす……………	134	お経を上げ終わると坊主をなぐる……………	76	顧みて他を言う……………	251
				カエルを叩きつけたよう……………	237
				蛙の子は蛙……………	235
				蛙の面に水……………	243

蚊を駆らず	36	鴉が馬鹿になるときがただ一つあ	管中約を窺うときに一斑を見るのみ	269
火牛の計	137	る、それは夜だ。鴉をちぢみ上が	雁帛	224
河魚の疾	41	らせる鳥がただ一つある、それは	看板にいつわりあり	192
学を廃すること機を断つがごとし	215	鼻だ	管鮑の交わり	128
家鶏を厭いて野雉を愛す	204	鴉に反哺の孝あり、鳩に三枝の礼あり	寒ボラ	54
影を見て吠える群犬	9	鳥の行水		179
かげ弁慶	145	カラスの鳴かぬ日はあつても何々のな		182
駆ける馬にも鞭	125	い日はない		182
臥薪嘗胆	35	カラスの濡れ羽色	【き】	
苛政は虎より猛なり	93	カラスミ	木から落ちた猿	49
渴しても盗泉の水は飲まず	208	雁が立てば鳩も立つ	雉の頓使	221
河童の川流れ	100	雁が飛べば石亀も地団駄	きけば猿でも腸を断つ	105
河東の獅子の吼ゆる	94	借りてきた猫	騎虎の勢	90
カニは甲羅に似せて穴を掘る	239	雁に長幼の序あり	雉も鳴かすば射たれまい	220
株を守って兎を待つ	76	雁の玉章	驢足を展ばす	143
寡婦の哀れは寡婦が知る	118	画竜点睛	樹倒れて猢猻散す	105
蝦蟇が鶴の肉を食いたいというようなもの	239	かわいい子には旅をさせよ	信屈齧牙	238
カマキリの三番子	39	かわいい子には棒を与え、にくい子に	狐を馬に乗せたよう	243
カマトト	47	はアメをやる	狐に赤小豆飯	243
噛む馬はしまいまで噛む	121	河を渡ると橋をこわす	キツネにつままれたよう	243
亀の甲より年の劫	243	汗牛充棟もただならず	狐の子は頬白	243
亀の年を鶴が羨む	244	管見	亀頭	244
カメレオンの子も動き方は自分で会得する	172	雁行	木に縁りて魚を求む	41
鳥が鳴くと人が死ぬ	182	閑古鳥が鳴く	驢尾に附す	123
		雁書	逆螢	23
		陥井の蛙	牛飲馬食	142
			牛驢同早	143

九牛の一毛	129	空中樓閣	242
牛耳を執る(牛耳る)	133	愚公山を移す	248
牛首を門にかけて、馬肉を内に売る	192	草を打って蛇を驚かす	3
牛渡馬勃	142	腐っても鯛	41
窮鼠却つて猫を噛む	60	口の虎は身を破り、舌の剣は命を断つ	128
窮鳥ふところに入らば狐師もこれを殺さず	75	くちばしの黄色いヒヨコ	186
牛蹄の津には尺の鯉なし、塊阜の山には丈の材なし	53	口は禍いの門	128
牛馬を断ち盤限(銅製の器)を截つ	141	唇亡びて(唇竭きて・唇竭るれば・唇なければ) 齒寒し	78
牛馬走	141	屈蟠信を求む	34
牛馬にも踏まれず	141	狗馬の心	142
鼻雄	216	熊を捕えないうちにその皮を売る	242
狂狼症	168	クマが石をかわかす	172
漁夫の利を占める(漁夫の利)	219	クマと仲よくするのはいいが斧を忘れるな	172
切り取り強盗は武士の習い	208	クマの笹鳴き	173
麒麟も老いては駕馬にも劣る	263	クマの良心	173
金鳥玉兔	80	クマも飼えばおじぎをする	171
金魚の糞	72	クマもひとりで骨つきを覚える	172
禽獣すらなお恩を知る、いわんや人間をや	62	クモでさえ最後まで巣を守る	36
禽獣百を数うると雖も一鶴に如かず	226	クモの子を散らす	37
金猫銀猫	147	暗がりから牛を曳き出す	131
食うだけなら犬でも食う	62	黒鼠	257
		群鶏の一鶴	204
		君子は豹変し、小人は面を革む	269
		君子は未然に防ぐ	148
		群盲象を撫でる	258
		群雄割拠	196
		群羊を駆つて猛虎を攻む	193
		群羊の中の猛虎	158
		鷄口となるとも牛後となるなかれ	134
		螢雪の功	23
		螢窓雪案	23
		鷄鳴狗盜、狼心狗走	193
		毛を吹いて疵を求む(吹毛の咎)	247
		怪我と弁当は自分もち	46
		逆鱗	17
		ゲジゲジに頭の上を渡られると禿になる	40
		蹴倒した上踏みつける	27
		下駄を穿かせた猫は鼠をとらない	148
		犬猿もただならぬ仲(犬猿の仲)	67
		喧嘩しなけりや仲よくならぬ	67
		犬兎の争い	219
		堅忍持久	35
		犬馬の心	142
		犬馬の勞もいとわぬ	142
		鯉が躍れば泥鰌も躍る	223

鯉の滝昇り……………	176	五虎大將軍……………	95	雜魚の魚まじり……………	46
鵠を刻みて成らざるもなお鵠に類する……………	92	虎視眈々……………	91	サバの生腐れ……………	42
香を袂に盗んで口を拭く……………	144	虎子、地に落ちて牛を食うの氣あり……………	8	五月蠅……………	80
鯨鰐の淵……………	17	五十歩百歩……………	251	皿管めた猫が科を負う……………	149
好漢惜しむらくは兵法を知らず……………	173	この父にしてこの子あり……………	237	猿返り……………	107
鴻鵠の志……………	210	胡馬は北風に嘶き、越鳥は南枝に巢くう……………	127	猴酒……………	113
鴻鵠は高く飛んで干池に集まらず……………	49	小判で鴨を打つ……………	185	猿に烏帽子……………	103
黃雀……………	227	虎豹の子は未だ文を成さずといえど……………	8	猿に水を飲ますとブクブク肥る……………	110
黃雀風……………	226	も、已に牛を食うの氣あり……………	8	猿の柿笑い……………	103
皇帝身上三個御風有……………	160	子ゆえの闇に迷う……………	221	猿の尻笑い……………	103
狡兔三窟……………	73	ゴリ押し……………	52	猿の面笑い……………	103
狡兎死して良狗烹らる……………	75	虎狼……………	166	猿は木から落ちてても猿……………	49
郷に入つては郷に従え……………	13	虎狼郷……………	94	猿は木から落ちてても猿……………	101
弘法も筆のあやまり……………	100	虎狼階陛に屯食するになお因果を談ず……………	166	猿は指二本、犬は指一本……………	109
蛟竜雲雨を得る……………	17	虎狼の頸……………	167	猿まね……………	111
亢竜悔あり……………	19	殺す奴は黙つて殺す……………	166	猿も柙中におけば豚と同じ……………	105
蟋蟀は蝦蟇の肉は食わないもの……………	238	ころばぬ先の杖……………	59	猿もオリの中におけば豚と同じ……………	105
甲論乙駁……………	226	根性に似せて家を住まう……………	148	猿も木から落ちる……………	100
基敵は憎さも憎しなつかし……………	67	衰竜の御衣……………	240	三月兎……………	79
故郷忘じがたし……………	127	【さ】……………	18	三月ヒラメは犬も食わぬ……………	80
巨魚は池中に生ぜず、大鵬は燕雀の林……………	53	材木屋のトンビ……………	209	三十六計、走るを以て上計となす……………	106
に遊ばず……………	53	豺狼虎豹……………	166	三すくみ……………	14
黒白を争う……………	180	豺狼路に当たる安んぞ狐狸を問わん……………	166	三寸の舌に五尺の身を誤る……………	128
虎穴に入らずんば虎兎を得ず……………	87	鷺を鳥と言いくるめる……………	180	【し】……………	196
コケの一念……………	149	雑魚で鯛をつる……………	42	鹿を逐う……………	197
虎口を脱す……………	87			鹿を逐う者兎を顧ず……………	196

鹿を逐う者は山を見ず、金を攫む者は人を見ず	197		33	151	153	周処三害	21
鹿を指して馬となす(馬鹿)	200		156	151	153	十八後家は立つが四十後家は立たぬ	132
鹿死するに音を振ばず	198		151	151	153	衆盲象を摸す	259
鹿の角を蜂が螫す	199		157	151	153	重卵より危し	205
シカの花妻	198		154	154	154	首鼠両端を持す	58
屍を馬車につつんで余栄あり	90		22	22	22	十虎組	95
鹿待つところの狸	198		227	227	227	朱に交われば赤くなる	180
地獄の沙汰も金次第	218		251	251	251	駿馬却つて痴漢を乗せて走り、美妻常に拙夫に伴つて眠る	120
獅子欺かざるの力	153		227	227	227	将(人)を射んと欲すればまず馬を射よ	119
獅子王、狐を捕るに虎を捕るの勢いをなす	151		269	269	269	生者必滅会者常離	126
獅子頭	159		271	271	271	冗談から駒	62
獅子吼	151		128	128	128	小の虫を殺して大の虫を助ける	30
獅子身中の虫	160		8	8	8	商売は道によつて賢し	4
獅子ッ鼻	159		228	228	228	書を以つて御する者は馬の情を尽さず	119
獅子に鱈	159		73	73	73	書を読みて羊を亡う(読書亡羊)	195
獅子に牡丹、竹にスズメ	159		23	23	23	諸子横議	226
猪の俵り問	252		258	258	258	虱の皮を槍ではぐ	205
獅子の子落し	156		258	258	258	素人のバカあたり	6
獅子の子育て	156		258	258	258	白虱	257
獅子の駒	161		34	34	34	唇齒の仲(よしみ)	78
獅子の友呼び	154		4	4	4	唇齒輔車	78
獅子の歯嚙	158		176	176	176	人生は朝露の如し	175
獅子の分け前	161		13	13	13	人生は白駒の隙を過ぐる如し	175
獅子は一匹の兎を撃つにも全力を用う	161		95	95	95	人生は風灯石火の如し	175
						人中の麒麟	16

人中の獅子	16
人中の竜	16
沈丁花は枯れても香ばし	42
信、豚魚に及ぶ	250
人面獸心	270
【す】	
隋珠を以て雀を弾つ	185
吹毛の咎	3
据え膳食わぬは男の恥	218
雀海中に入つて蛤となる	225
雀の千声、鶴の一声	225
雀の涙	225
雀は景氣のよい所を選んで飛ぶ	228
雀百まで踊りを忘れず	225
すてる神あればひろう神あり	126
【せ】	
井蛙（井底の蛙）	236
井蛙には以て海を語るべからず	236
精神一到何ごとか成らざらん	89
清水に魚棲まず	48
尺沢の鯢	238
鶴鶴原にあり、兄弟急難あり	212
せちせち貧乏、ぬらり果報	24
せつかくの羊の肉が何で犬の口におち	

こんだ	120
千金の貨を決する者は鉄両の価を争わず	197
千雀群がり来るとも鳳翼の一撃	226
千丈の堤も蟻の穴を以て潰ゆ（千丈の堤も蟻の一穴）	25
柁櫃は双葉より香し	7
前門の虎、後門の狼	87
千里の馬を却く	124
千里の馬は常にあれども伯樂は常にあらす	123
【そ】	
象を評す	259
喪家の犬	6
瘦軀ツルの如し	39
宋襄の仁	248
増上慢	210
象のあとを跟けてゆけば甘蔗の切れはしにありつく	260
象は齒ありて以てその身を焚かる	259
双竜玉を争い、両虎肉を争うがごとし	17
楚國、猿を亡ぼすために山林を焼き、禍いを招く	106
楚人は沐猴にして冠するのみ	103
袖の下に回る子は打てぬ	64
損して得とれ	193

【た】	
大厦の倒れんとするや一木のよく支うべきにあらず	105
大行は細謹を顧みず	197
大黒柱を蟻がせせる	24
泰山鳴動して鼠一匹	8
大丈夫まさに屍を馬革につつむべし	90
鯛の尾よりも鯛の頭	134
大の虫を生かすため小の虫を殺す（大の虫、小の虫）	32
大仏を蟻が曳く	24
鯛も一人はうまからず	41
大欲は無欲に似たり	44
蛇影杯弓	10
鷹を養うが如し	208
鷹は死しても穂をつまず	208
鷹は百鳥のつわもの	206
高嶺の花	43
滝小便	246
多岐亡羊	195
蛇驚	3
他家の飼ひ猫は鼠をとるのにうちの猫は鶏しか捕らぬ	148
竹箒も五百羅漢	45
蛇首を挙ぐるること尺にして、而して脩	

短を知るべきなり、象はその牙を見て而して大小を知るべきなり	9	逐鹿(戦)	196	敵もサルもの引つかくもの	272
蛇首を見て長短を知る	9	ちつとも寝ていられないトラのよう	96	鉄は熱いときに打て	135
打草驚蛇	4	中原	196	出る杭は打たれる	57
蛇足	5	中原に鹿を逐う(中原の鹿)	196	天下の鴉は一樣に黒い	179
戦わずして敵を呑む	152	中原の覇者	197	天下分け目の関ヶ原	196
ただの目になに石山の秋の月	218	長広舌	153	天狗になった	210
覺水練	119	朝三暮四	104	天、勾踐を空しうするなかれ、時に范蠡なきにしもあらず	106
脱兎の勢い	71	猪突猛進	252	殿上の虎	95
立つ鳥あとを濁さず	176	塵も積もれば山となる	256	テントウムシが体にとまるといいことがある	40
蓼食う虫も好き好き	186	杖をあげて狗を呼び、弓を張って鶏を祝す	60	天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず	7
立てたら百両	108	杖の下に回る犬は打たれぬ	64	田父の利	220
他人の疝氣を頭痛に病む	186	月夜鴉	182	天網恢々疎にして漏らさず	206
タヌキ面	242	常を忌み新を喜ぶ	204	怒蛙に式す	238
タヌキ寝入り	243	角を矯めて牛を殺す	134	遠きは花の香	204
狸のきんたま八畳敷	243	釣鐘を蜂がさす	135	桃李言わざれども、下自ら蹊をなす	89
タヌキの溜めぐそ	245	ツルの一声	226	登竜門	19
頼みの綱	101	鶴は千年亀は万年	244	同類相求む	140
卵の殻を食べると卵を産まなくなる	82	敵国が破れば謀臣滅ぶ	75	蟪蛄をうかがう	29
氏を牧するは羊を牧するに異ならず	193	敵だとはっきりわかっている敵は一番おそろしくない敵	59	蟪蛄の衛	28
誰か鴉の雌雄を知らんや	179			蟪蛄の斧	28
断機の戒め	215			蟪蛄の斧を以て降車の隧を禦さんと欲	28
田んぼに下りた鶴	204				

す、なお蟻螂の臂を怒らして車轍に 当たるがごとし	28
土方殺すに刃物はいらぬ、雨の三日も 降ればよい	46
毒蛇に大蛇なし	272
読書亡半	195
禿ならずんば毒ならず	132
毒変じて薬となる	131
どこ吹く風	72
年の功	243
年はとっても浮気はやまぬ	225
猪首	252
屠所の羊	191
兎唇	79
兎子	80
嫁いだ女の子は撒いた水にひとし	204
ドッグフードばかり与えろと歯や消化 器が弱くなる	273
トドのつまり	54
隣りのご亭主はスマレのよう	204
隣りの貧乏は鴨の味	218
隣りの飯はおいしい	204
トビがタカを生んだ(トビタカ)	208
飛ぶ鳥の猷立	242
止まっているクジャクを射つのはスポ ーツにあらず	79

虎を描いて狗(いぬ)猫に似る	91
虎を野に放つ	94
虎を養いて自ら患を遺す	94
虎とみて石に矢の立つためしあり	88
虎にして冠する者	268
虎に翼を添える	94
トラになる	159
虎に變じて封使君多し	96
捕らぬ狸の皮算用	94
虎の威を借る狐	241
虎の尾を踏む心地	85
虎の子	258
虎の子は犬にはならぬ	87
虎の子渡し	87
虎は死して皮をとどむ	237
虎は千里行つて千里帰る	88
鳥窮すれば則ち啄み、獸窮すれば則ち 攫む	90
鳥起つ者は伏なり	95
鳥飛んで鳥の如し、魚行きて魚の如し	60
鳥なき里の蝙蝠	174
鳥の巢をはなれたる如し	236
鳥の將に死せんとする、その鳴くや哀し	176
鳥の目を過ぐるが如し	101
鳥は則ち木を選ぶ、木豈能く鳥を選ば んや	174
	175

禽も困れば車をくつがえす	60
屠竜の技	16
泥棒をみて縄をなう(ドロナワ)	72
吞舟の魚は枝流を游がず	49
吞舟の魚も水を失えば鱣に制せらる	49
吞舟の大魚を逸す	49
飛んで火に入る夏の虫	30
どんな蜂にも針はある	33
トンビに油揚げをさらわれた	209
トンボ締め	40

【な】	
長いものには巻かれる	260
鳴かぬ鶺鴒の声	183
鳴かぬ螢が身をこがす	22
泣きつ面に蜂	27
鳴く虫は捕えられる	222
梨の礫	222
七ころび八起き	126
何がナンキン、トウナス、カボチャ	251
何がナンキン、ブタのシツポ	251
なめくじにも角がある	33
南蛮駄舌の人	191

【に】	
牲に赴く羊	191

仁王山を知らぬ虎	96	猫じゃらし	149	鼠に投ぜんとしてその器を忘る	186
鳩の浮巢	189	猫背	144	鼠の子算用	256
鳩の八丁もぐり	189	猫つかぶり	145	ネズミの尻尾のオデキ	257
逃がした魚は大きかった	48	ネコにイカを食わすと腰がぬける	84	鼠は社によりて貴し	258
ニタを打つ	253	猫にカツオブシ	144		
ニタ場	253	猫にから鮭	144		
二頭のクマも一つの穴には暮らせぬ	172	ネコに金魚の番	63	【6】	
二兎を追うものは一兎も得ず	71	猫に小判、豚に真珠	147	能ある鷹は爪をかくす	206
にべもない	43	猫にマタビ女郎に小判	147	能なし犬は昼吠える	207
乳虎の怒り	87	猫の魚辞退	145	逃した魚は大きかった	48
鶏を割くに焉ぞ牛刀を用いん	205	猫の子を貰うように	146	咽喉元すぎれば熱さを忘れる	73
ニワトリとウサギを飼うとヘエがこない	82	ネコの手も借りたい	147	野中の榎のトンビ	209
鶏に嫁げば鶏に従い、犬に嫁げば犬に従う	204	猫の額	144	乗りかかった舟、渡りかけた河	90
人間万事金の世の中	50	猫の額にあるものを鼠が狙う	149	狼火(狼煙)	168
人間万事塞翁が馬	126	ネコは家庭の中の野獣である	272	【は】	
		ネコは三年飼っても三日でその恩を忘れる	66	盃中の蛇影	10
【ぬ】		猫ババを決めこむ(ネコババ)	144	馬鹿	199
盗つ人に蔵の番、道楽息子に金の番	144	猫またぎ	144	掃き溜めに下りた鶴	204
		猫まんま	144	萩にイノシシ	159
【ね】		猫も杓子も	147	バクが夢を食う	265
葱をしょった鴨	218	鼠をぶつために玉瓶を傷つける	185	薄水を踏む心地	87
猫を追うより魚(皿)を除け	148	鼠を以て璞となす	257	伯梁	122
猫おろし	143	鼠が塩を引く	256	伯梁の一顧	122
ネコがカラスガイを食うと耳が落ちる	84	ネズミ算	256	ハコベを食わすと無精卵を産む	83
猫が肥えればカツオブシが瘦せる	145	鼠捕る猫は爪かくす	207	二十後家は立つが三十後家は立たぬ	132
				二十坊主は牛のふぐり、五十坊主は鹿	